

東日本大震災支援ニュース

神奈川県労働組合総連合(神奈川労連)

〒231-0062 横浜市中区桜木町 3-9 横浜平和と労働会館 6F
TEL 045-212-5855 / FAX 045-212-5745

NO.10

2011年7月15日発行

震災ボランティアへ続々と出発！

神奈川労連では、6月16日から震災ボランティアを開始しました。原則として毎週木～日曜日の4日間を一行動とし、派遣地域は宮城県石巻市です。当面8月まで実施の予定で、本日出発した第4陣まで延べ29名の方が参加しています。

主な作業は、個人宅や水産加工場に堆積した瓦礫撤去と泥出しで、防じんマスク、ゴム手袋、長靴などで防備して作業します。散らばった瓦礫を運び出し、庭一面に堆積したヘドロの量は半端ではなく、作業が終わると大量の瓦礫と土嚢袋の山ができるという状態です。未だ全く手をつけられていない家屋もあり、長期的な支援が求められています。

《8月の派遣期間予定》

第7陣 8月4日～8月7日・第8陣 8月11日～8月14日・

第9陣 8月18日～8月21日・第10陣 8月25日～8月28日

「少しは役に立てた。支援できた。」と実感—ボランティア参加報告



やした気持ちもスッキリしました。

また、労連・三浦さんのリーダーシップのおかげで、メンバー全員が協力し合い、気持ち良く活動できました。貴重な体験が得られ、有意義な4日間でした。(6月30日から参加した、森さんからの報告でした)

おつかれさまでした。



ボランティア活動の説明を受ける参加者

ボランティア活動は、旅館の床下への石灰粉撒きや工場わきの泥出し・清掃作業などで、作業の合間に旅館のご主人から、「昨年、家をリフォームし、玄関も改修したというのに…。前の家の人も津波で亡くなられた。商売(旅館)は止めようと思ったが、みなさんに励まされて、もう一度やってみようと思ひなおした」などの話を聞き、これまで以上に津波の凄さ・自然の猛威を認識させられました。

4日間の活動を通して、支援先の方から、こもごもに「ありがとう」の言葉をいただき、わずかな手助けでしたが、「少しは役に立てた。支援できた」と実感できました。震災後に思っていた「できることを、何か行いたい」のもやも



一面瓦礫だらけの街を見て、ため息が…。